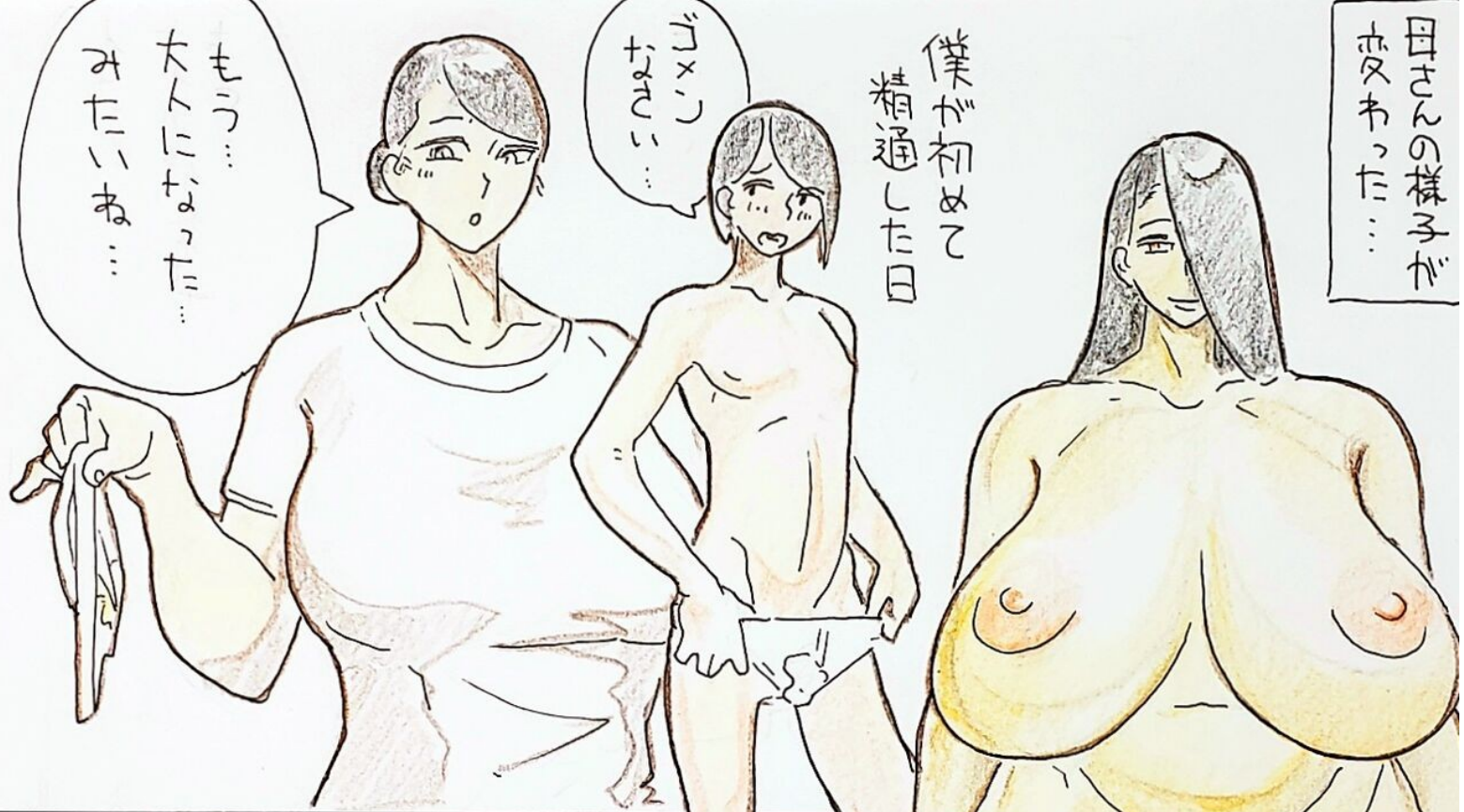


母さんの様子が
変わった...

僕が初めて
精通した日

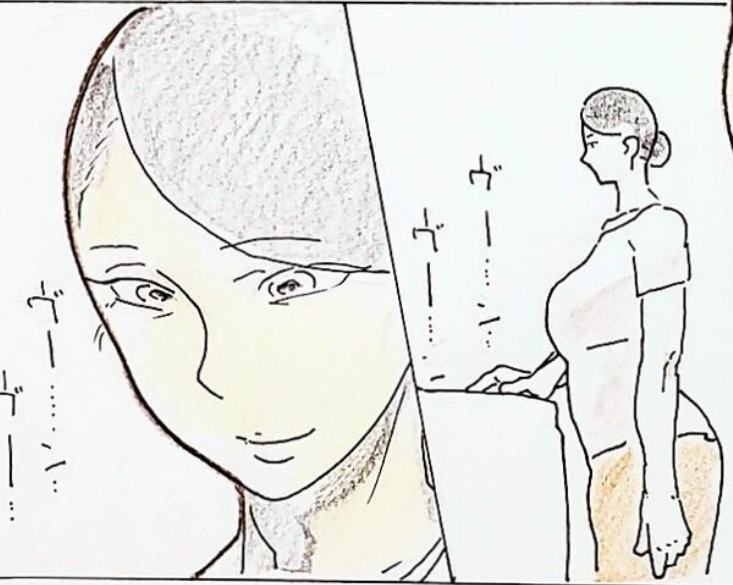
グーッ
なぞ...

もう...
大人になった...
みたいね...



淡々と洗濯する母は
どこかうれしそうだ...

グーッ
グーッ...



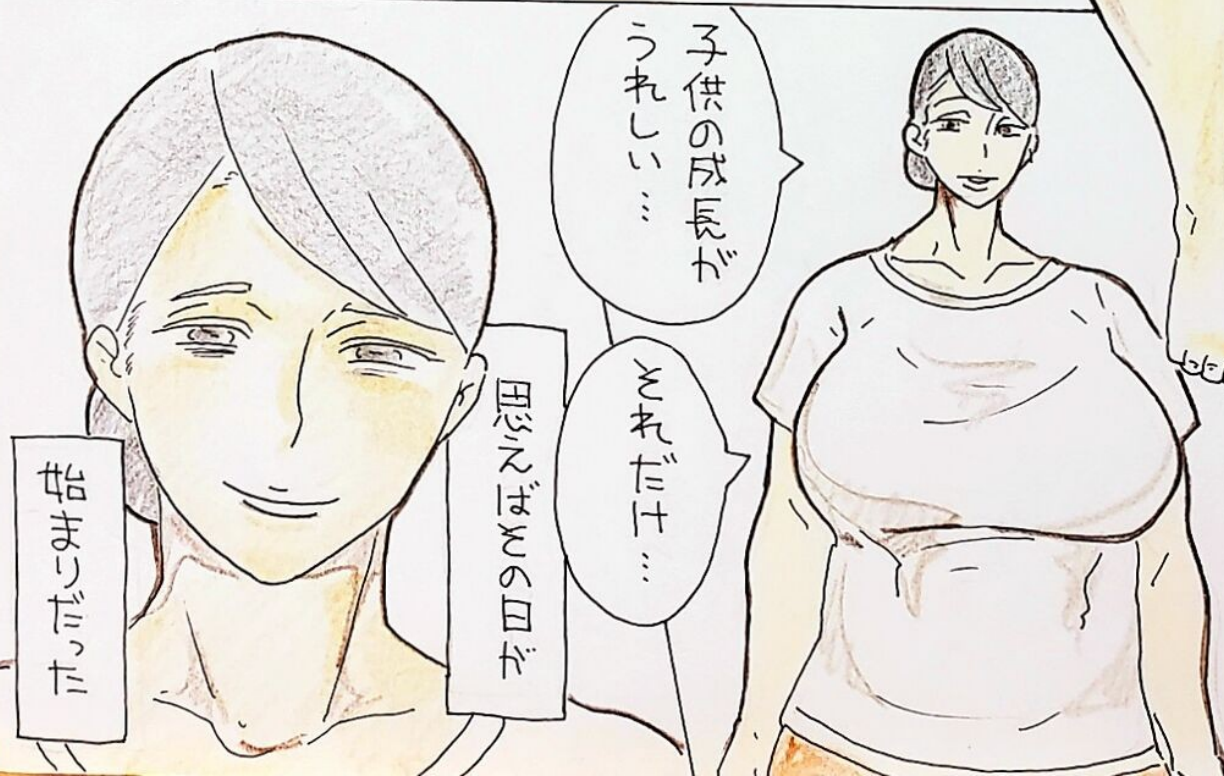
恥ずかしいが
母はせせこましい

子供の成長が
うれしい...

それだ...

母さんの成長

始まった



部屋…
目撃…

着替える
から…

熱があるのか頬は赤く
目元にも力がない

じゅじゅ…

鼻につく
汗ばんだ匂い



あっ……ん……

あ……

はあ……

はあ……

あ……

あ……

甘くて
熟れゆく
甘い香り

……

ゴクン……
ビク……

それでも母の女性器は
美しく僕を誘っていた……

その視線を切った
のは母さんだった

その口元に誘われるまま
母の部屋を覗く……
瞬間、視線が絡み合う

今の私では相手にするだけ
無駄なのだろう……



お風呂
入ったら...

服、忘れて...

みんな私のことを知んなか

母さんね...

度々僕の前に
裸を晒した...

あ、モカ
はえてる...

心は進まずとも
体は進んでゆく...

肌が
剥けた...

そんな中考えは
まぶつたおかしな止めた

早く...
浴ま...



なんじの...
なんじの...

じやうこう
今日の仕事代

掃除 終わり
ました

なんじの...
なんじの...
なんじの...
なんじの...

なんじの...
なんじの...
なんじの...

なんじの...

なんじの...
なんじの...

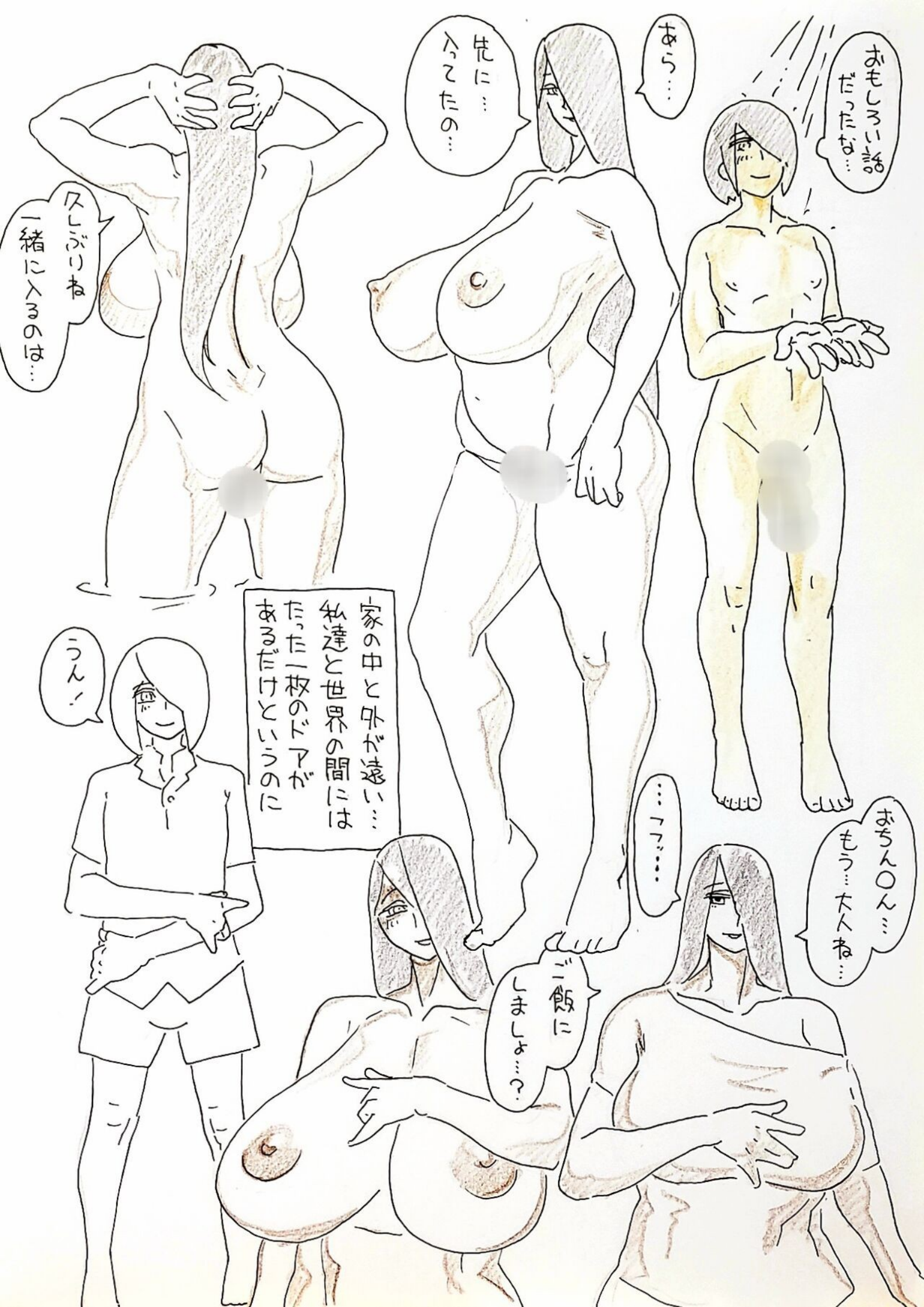
なんじの...
なんじの...

なんじの...

なんじの...
なんじの...
なんじの...

なんじの...
なんじの...
なんじの...

なんじの...
なんじの...
なんじの...



おもしろい
だったな...

あら...

先に...
入ったの...

久しぶりね
一緒に入るの...

家の中と外が遠い...
私達と世界の間には
たった一枚のドアが
あるだけというのに

うん！

...フフ...

おちん○ん...
もう...大人ね...

ご飯に
しましよ...?

あの子...
おっぱい...
ん...
あ...

私を求めて...
勃起...
してた...

ゴメン...
トイ長くて...

たった一枚のブラが
あるだけで、私達は
こんなにも自由だ

母さん...

今日は
一緒に...
寝てもいい？

どうしたの...?

急に甘えて...
ぬいぐるみもあつた？

今夜、大罪を犯そうと
誰も咎める者はいない...

大丈夫よ...

今夜はずっと...
一緒にいてあげる...



春先には珍しく
汗ばむ程の夜だった

...

あの日以来...
僕は夕々に
母の部屋へ訪れた

...

服...どうしたの...?
まあ...はいいけど...

何年ぶり...
かしらあ...

あ...あ...
あ...あ...

何気ない会話の中「母さん」と
呼ぶ...母の「はあ」の
返事がたまらなくなってきた

本当にうれしかった
母さんは今でも
母さんだった事が



ぼろぼろとこぼれる
女顔の下には...

今が今かとスキを
伺う本能という
性欲が覗いていた

言葉も尽き
静かな時が
訪れる...

そして
始まる



僕はただ、胸を見せ
服従していた...

頭を衝かせ
てきた...

後は私達の体が
何をやるかを知ってる

動物の様に丁寧な交尾も出来ず性欲に溺れもかく

振り乱す胸は産まれ出るその為には思えない

脈打つ度に訪れる一時の静寂...
僅かに残る気性は
あゝミミをなだめ

声を出し、息は乱れ口からは涎の雨...



『聞いて驚くんだよ』

『ギンズナッては物はお...』



『相手を選ぶ理由がなんの』

『生まれる子供は母体のクローン...
受精しても遺伝子には何の』

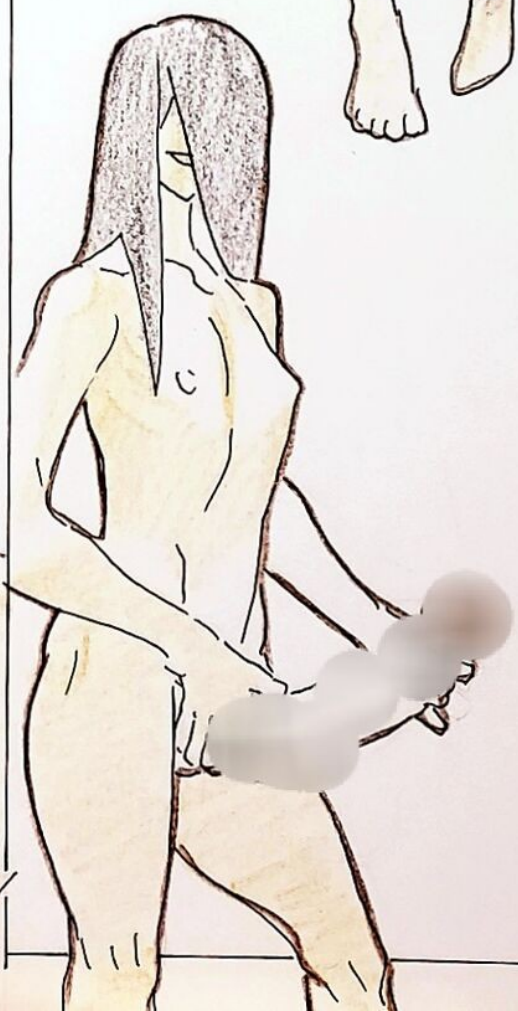
『影響も起ころない』

『更にその精子も』

『同種である必要すら無いの
実験的に試された結果
ウガイザビュウとの子も成した』



『ごく稀にはまれ出る同種のオス
トリスとの関係が親子だとしても』



『拒む理由はなんでも無い
問題が湧くだけなんだ...』



『僕達も同じだよ...母さん...』



子供が生まれた

からめたぶんばい

ちゅう母さんに

きりりな美人だろう

日々大きくなる母さんの中の命

その成長がたまらなくなってきた

